



開業当時の新橋機関庫，機関車は後の160形

鉄道開業期の機関車

■日本の鉄道は、明治5年5月7日まず品川－横浜間が開通し旅客の営業を開始した。当時機関車の総数は10両で、これらの機関車は鉄道建設、技術等の指導をイギリスから受けていた関係上、すべてイギリス製であった。当初輸入された機関車は1B形飽和タンク機関車が主で（のちの形式で150 160 190 110等）ある。

ついで新橋－品川間の開通によって新橋－横浜間の開業となり、明治5年9月12日（太陽暦10月14日）明治天皇臨席のもとに開通式が挙行政され、正式な開通となった。

品川－新橋間仮営業から2年後、明治7年5月11日大阪－神戸間が開通し12両の機関車が配置になった。（のちの5000. 120. 7010形式等）この中には最初のテンダ機関車が含まれている。

1号機関車原形

